

- ・ 幼児と児童の交流について、H24調査では48%の学校が「教育課程に位置付け」ており、交流活動が根付いてきていると考えられる。
- ・ 「教師・保育士等の意見交換の交流」について、H21調査結果では、合同研究会の取り組みが進んでいなかったが、H24調査では授業参観あるいは保育参観と合わせて、合同の研究会の開催についても取り組みが進んでいる。幼保小の接続を見通した教育課程を編成するために、参観後の意見交換等が互いの教育の理解につながるようにしていきたい。
- ・ 「幼稚園や保育所での保育体験」を実施する学校が増えてきた。幼稚園や保育所の幼児の生活を実際に見ることは、どのような発達の上に小学校教育があるのか理解を進めるのに大変に有効であると思われる。
- ・ 「就学に向けての連絡会」はH21に80%であったものが、H24には90%になっている。小学校生活にスムーズに移行するために、連絡会が重要な役割を果たし、必要感が大きいことがうかがわれる。

市町村教育委員会における幼児教育と小学校教育の連携・接続の取組の状況（H24.9 調査）

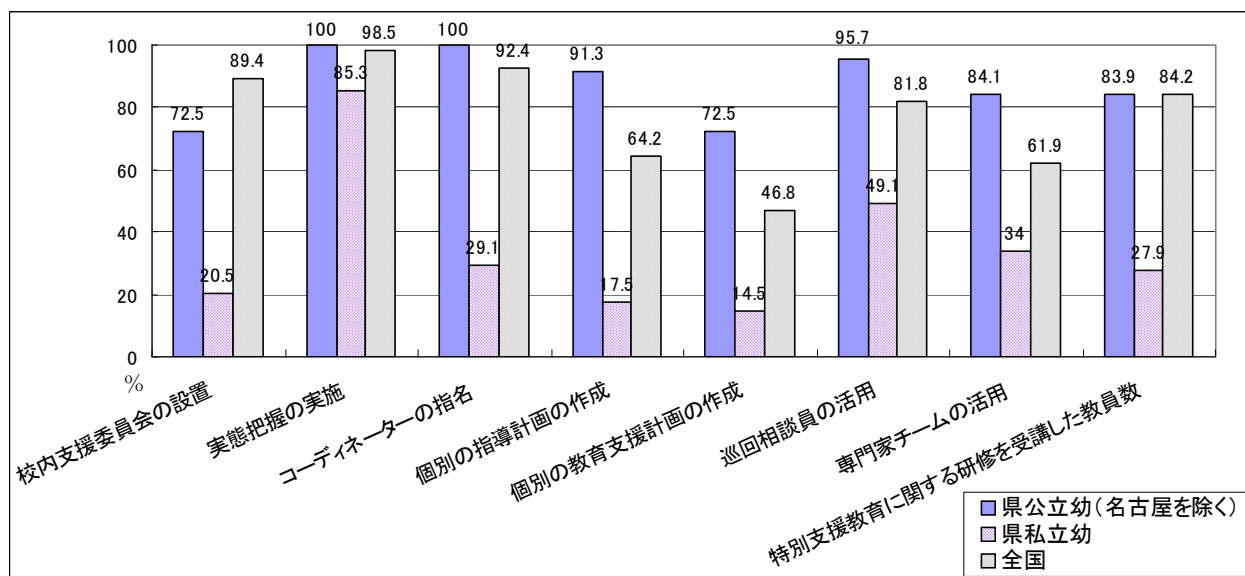
| | | 該当市町村数 |
|-----------|--|-----------|
| ステップ0 | 連携への予定・計画がまだない。 | 0（0%） |
| ステップ1 | 連携・実施に着手したいが、まだ検討中である。 | 13（25%） |
| ステップ2 | 年数回の授業、行事、研究会などがあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。 | 33（62%） |
| ステップ3 | 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。 | 5（9%） |
| ステップ4 | 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。 | 2（4%） |
| （名古屋市を除く） | | 合計 53 市町村 |

- ・ 半数以上の市町村が「ステップ2」であると回答している。
- ・ 各教育委員会においては、現在各校で行っている交流を充実させ、接続を見通した教育課程の編成・実施につなげていく取組が求められる。

小学校1年生の気になる行動の状況（H22.9 調査）名古屋市を除く県内公立小学校714校の回答

| 質問 | 1年生の1学期(4月、5月、6月、7月)に、次のような児童の姿がありましたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|------|------|------|-------------------------|------|------|------|---------------------------|------|------|------|---|------|-----|-----|--------------------------|-----|-----|-----|----|
| 選択肢 | ①授業中勝手に教室の中を立ち歩いたり、教室の外へ出て行ったりすることが度々あった。 | | | | ②担任の指示通りに行動しないことが度々あった。 | | | | ③児童同士のけんかやトラブルが日常的に起きていた。 | | | | ④教育的な配慮や支援を要する児童に教諭が個別対応している間に、他の児童が勝手なことをしていることが度々あった。 | | | | ⑤私語が止まず、ざわわしていることが度々あった。 | | | | |
| | 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
| | 校数 | 232 | 202 | 155 | 124 | 232 | 211 | 167 | 146 | 148 | 155 | 127 | 105 | 144 | 116 | 86 | 68 | 56 | 45 | 28 | 25 |
| 割合 (%) | 32.4 | 28.2 | 21.6 | 17.3 | 32.4 | 29.5 | 23.3 | 20.4 | 20.7 | 21.6 | 17.7 | 14.7 | 20.1 | 16.2 | 12 | 9.5 | 7.8 | 6.3 | 3.9 | 3.5 | |

◎ 特別支援教育の状況（文部科学省平成23年度特別支援教育体制整備状況調査の結果より）



◎ 幼稚園・保育所での研修の状況

- 愛知県教育委員会の義務教育課（総合教育センター）、特別支援教育課において実施している研修

(H24. 5. 1 現在)

| 研修名 | 期間(回数) | 対象 | 研修の目的や主な内容 | 参加人数 |
|------------------------|------------------------------|----------------------------------|---|-------------------|
| 幼稚園等新規採用教員研修 | 園内・園外 各10日間 | 新規採用教員 (公立幼稚園) ※私立幼稚園は別途実施 | 幼稚園等の新規採用教員に対して、教育公務員特例法の規定に基づき、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させることを目的とする。 | 50人 |
| 10年経験者研修 | 園内7～10日間 園外8日間 | 幼稚園10年経験者教員 (公立私立幼稚園) | 在職期間が10年を経過した全教員に対して、教員の資質の向上、使命感の養成、専門性の向上、得意分野の伸長を図る。 | 20人 (公立13・私立7) |
| 幼稚園教育課程講座 | 講演会 0.5日間 研究協議会 1日間 | 公立私立幼稚園・一部の公立保育所の教員・保育士 | (1) 幼稚園の教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題についての専門的な講義や研究協議等 (2) 幼稚園を取り巻く事項に係る諸課題についての専門的な講義や研究協議等 | 330人 |
| 園長等運営管理研修 | 2日間 | 公立私立幼稚園長・保育所長 (名古屋を含む) | 園長等に対する幼稚園の運営・管理に関する専門的な講義や研究協議等 | 46人 |
| 保育技術講座 | 3日間 | 公立私立幼稚園・保育所の中堅教員・保育士 (名古屋を含む) | 保育技術についての専門的な講義や研究協議 | 52人 |
| 発達障害児基礎理解推進研修 | 0.5日間 | 希望する幼稚園教員と保育士、小中学校・高等学校の一般教員 | 発達障害に関する基礎的な知識理解を図る。 | 624人 (幼保で51人) |
| 特別支援教育コーディネータースキルアップ研修 | 2日間 | 公立幼稚園、小・中の特別支援教育コーディネーター | コーディネーターの役割、特別支援学校との連携の在り方、就学・進路指導の在り方等について協議し、資質の向上を図る。 | 幼稚園は約30人 |
| 発達障害児指導事例研究会 | 幼・小・中で 150回 | 公立幼稚園・小中学校教員 | 発達障害、あるいは発達障害が疑われる幼児・児童・生徒に関する指導事例を検討することにより、教員の資質向上を図る。 | 各幼小中で各回10名程度 |

○ 愛知県県民生活部私学振興室が委託して行っている研修

委託先：(社) 愛知県私立幼稚園連盟(平成 24 年度)

| 研修名 | 期間 | 対象 | 研修の目的や主な内容 | 参加人数 |
|--------------|------------|----------------------|---|------|
| 幼稚園等新規採用教員研修 | 園外 10日間 | 新規採用教員(名古屋市の146人を含む) | 新規採用教員に対して、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得させることを目的とする。 | 420人 |

○ 愛知県健康福祉部子育て支援課で委託して行っている研修

現任保育士指導者養成研修(名古屋市は含まない)

委託先：愛知県現任保育士研修運営協議会(平成 24 年度)

| 研修名 | 期間 | 対象 | 研修概要 | 参加人数 |
|---------|------|-----------------|--|------|
| 園長研修 | 1日間 | 園長 | 家族援助を始め、多様化・高度化する保育の今日的課題に対し、保育所の代表、保育所経営の責任者、職員の管理者として、園長の果たすべき役割について実践的な研修を行う。 | 51人 |
| 主任保育士研修 | 10日間 | 主任保育士 | 保育所内においてスーパーバイザー、コーディネーターとしてリーダーシップを発揮することが期待されている主任保育士が、多様な保育の今日的課題に対して指導的役割を果たすための実践的力量的向上を図る。 | 64人 |
| 中堅保育士研修 | 5日間 | 中堅保育士(概ね5年以上) | 保育所及び保育者の役割を再確認し、正しい子どもの発達観のもとで保育内容を見直すとともに、保育実践研究を通して具体的事例への対応を研修する。 | 62人 |
| 初任保育士研修 | 5日間 | 初任保育士(採用3年目まで) | 初任保育士として必要な現場における基礎知識及び技能の習得、社会人としての職場における適応力を培う。 | 57人 |
| 障害児保育研修 | 3日間 | 保育士 | 障害児保育及び発達障害の基礎理論を学ぶとともに、発達障害児を中心とした障害児に対する保育の実施に係わる実践手法の修得や具体的事例を取り上げた課題研究を行う。 | 93人 |
| 乳児保育研修 | 3日間 | 保育士 | 乳児を中心とした3歳未満児の保育について、的確で発展的な保育内容と方法を習得するため、基礎的理論に基づいた実践のあり方を学び、さらに受講生が直面している課題について演習形式で研修する。 | 101人 |
| 公開講座A | 1日間 | 保育士(認可外保育所を含む。) | 保育の理論及び実技を再確認し、さらに保育の今日的課題とその対応について研修する。 (テーマ：食物アレルギーの基礎知識とその対応)「子ども音楽療育」について学ぶ) | 94人 |
| 公開講座B | 1日間 | 保育士(認可外保育所を含む。) | 保育の理論及び実技を再確認し、さらに保育の今日的課題とその対応について研修する。 (テーマ：多様化する保育ニーズに応える) | 74人 |

※ 研修については、各市町村で行っているもの、(社) 愛知県私立幼稚園連盟で行っているもの、愛知県社会福祉協議会で行っているものなどが別にある。

◎ 幼児をめぐる地域の状況

縦の質問：最近の幼児の育ちについて危うさを感じていることを2つ選んでください。
 横の質問：今、子どもの育ちについて危うさを感じていることの要因は何ですか？

- 調査対象・回答数
- ・ 愛知県内の各市町村・関係団体が抽出した幼稚園・保育所・認定こども園・小学校それぞれの保護者、教師、保育者
 - ・ 1, 493人より回答 内訳（保護者735人、保育者・教師749人、無答・不明9人）

（平成21年度愛知県幼児教育研究協議会調査より）

| | 育ちの危うさ | 要因 | 選択肢 | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ | | | | | | | | 計 | |
|---|--|----|------|-----------------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------|----------------------------|---------------------------|--------------------|-------------------------------|--|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | | |
| | | | 全体 | 高年齢者や地域の人々との関わる機会が少ない | 家庭でしつけがきちんとなされていない | 犯罪など戸外での子どもの安全の確保が難しい | 友達と一緒に、夢中になつて遊ぶ経験が少ない | 悪いことをして叱られる経験が少ない | けんかや言い争い、あるいは何かを分け合う経験が少ない | 兄弟姉妹の人数が少なく、家庭の中での遊び場が少ない | 公園や広場など地域での遊び場が少ない | 親が忙しく、子どもと向き合つてゆつたりと過ごす時間が少ない | |
| | | | % | | | | | | | | | | |
| ① | ルールや約束を守ろうとする気持ちが弱くなっている | | 8.3 | 6.2 | 43.6 | 1.3 | 8.9 | 21.8 | 8.4 | 3.6 | 6.2 | 100 | |
| ② | 友達同士で遊ぶ機会が少くなり、相手の気持ちを察することなどができにくくなっている | | 14.0 | 2.7 | 6.8 | 5.7 | 43.9 | 4.4 | 26.4 | 4.9 | 5.2 | 100 | |
| ③ | 室内での遊びが多く、体力や運動機能が低下している | | 11.9 | 1.3 | 2.8 | 50.3 | 14.6 | 0.3 | 1.9 | 20.6 | 8.2 | 100 | |
| ④ | トラブルを避ける傾向にあり、思っていることを相手に伝えたり相手の話を聞いたりする力が低下している | | 10.3 | 5.9 | 7.4 | 2.6 | 24.1 | 9.6 | 33.8 | 2.2 | 14.4 | 100 | |
| ⑤ | 思い通りにならないとき、我慢する力が弱くなっている | | 26.4 | 2.9 | 27.2 | 0.4 | 3.5 | 22.3 | 31.4 | 0.9 | 11.4 | 100 | |
| ⑥ | 基本的なあいさつやお礼の言葉などがなくなっている | | 10.7 | 31.7 | 50.2 | 1.1 | 0.7 | 3.9 | 2.8 | 2.5 | 7.1 | 100 | |
| ⑦ | テレビを見たりゲームをしたりすることが多くなり、実体験が乏しくなっている | | 18.4 | 3.5 | 4.4 | 23.4 | 18.7 | 2.1 | 3.7 | 12.7 | 31.5 | 100 | |
| | 計 | | 100 | | | | | | | | | | |

- ・ 多くの保護者や保育者が、地域の人々との関わりが少ないことや、戸外での安全確保が難しいことなどが幼児の育ちの危うさにつながっていると感じている。

平成23年度 愛知県幼児教育研究協議会委員等名簿 (敬称略)

| | 氏名 | 職名 |
|------|-------|---------------------------------|
| 会長 | 山口雅史 | 椛山女学園大学教授 |
| 副会長 | 牧信子 | 名古屋短期大学教授 |
| 委員 | 梶谷修 | 大府市教育委員会教育長 |
| 委員 | 安保章一 | 名古屋市教育委員会学校教育指導室長 |
| 委員 | 渡邊佐知子 | 名古屋市子ども青少年局子育て家庭部保育企画室長 |
| 委員 | 永谷洋二 | 碧南市福祉こども部こども課長 |
| 委員 | 鈴木照美 | 愛知県国公立幼稚園長会会長(名古屋市立第一幼稚園長) |
| 委員 | 柚田敬岳 | (社)愛知県私立幼稚園連盟会長(自由ヶ丘幼稚園長) |
| 委員 | 安藤哲 | 愛知県社会福祉協議会保育部会部会長(白鳩保育園長) |
| 委員 | 竹内公子 | 名古屋民間保育園連盟副会長(昭和保育園長) |
| 委員 | 三輪隆彦 | 尾張旭市立渋川小学校長 |
| 委員 | 柴田富子 | 安城市立桜井小学校長 |
| 委員 | 松井一樹 | 愛知県国公立幼稚園PTA連絡協議会代表(名古屋市立第一幼稚園) |
| 前期委員 | 安藤さや子 | 愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(美鳥幼稚園) |
| 後期委員 | 浅井美穂 | 愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長(希望幼稚園) |
| 委員 | 三原真衣 | 一宮市立野口保育園保護者の会会長 |
| 委員 | 下畑昌史 | 愛知県県民生活部学事振興課私学振興室長 |
| 委員 | 村瀬忠俊 | 愛知県健康福祉部子育て支援課長 |

平成23年度 愛知県幼児教育研究協議会専門部会委員名簿 (敬称略)

| | 氏名 | 職名 |
|-----|-------|---------------------------------|
| 部会長 | 牧信子 | 名古屋短期大学教授 |
| 委員 | 山田初枝 | 桜花学園大学非常勤講師 |
| 委員 | 栗木節子 | 名古屋市立二城幼稚園長 |
| 委員 | 小西純子 | 半田市立宮池幼稚園長 |
| 委員 | 杉浦正代 | 豊田市子ども部保育課指導主事 |
| 委員 | 齋藤善郎 | (社)愛知県私立幼稚園連盟第1教育研究部長(林丘幼稚園理事長) |
| 委員 | 加藤由美 | 小牧市立三ツ渚保育園長 |
| 委員 | 天野利恵子 | 西尾市子ども部子ども課主幹 |
| 委員 | 松井美千子 | 高浜南部保育園長(高浜市) |
| 委員 | 鈴木直子 | 春日井市立丸田小学校長 |
| 委員 | 市田幸代 | 刈谷市立平成小学校長 |
| 委員 | 堀部要子 | 春日井市立岩成台小学校教頭 |
| 委員 | 松村光洋 | 愛知県教育委員会生涯学習課教育主事 |

「愛知の幼児教育指針」策定連絡会議構成員（敬称略）

| | 氏 名 | 職 名 |
|-----|---------|--------------------------------|
| 議 長 | 岩 間 博 | 学習教育部長 |
| 委 員 | 安 藤 綾 子 | 教育企画室長 |
| | 稲 垣 寿 | 義務教育課長 |
| | 上 田 裕 | 特別支援教育課長 |
| | 尾 崎 亨 | 子育て支援課長 |
| | 松 原 光 彦 | 私学振興室長 |
| | 山 口 雅 史 | 椋山女学園大学教授 平成23年度幼児教育研究協議会会長 |
| | 森 繁 雄 | 生涯学習課長 |